東京外かく環状道路(関越〜東名) 電接 エニカリング調本 (大気顔、火火) (第2) のは思について (お)

環境モニタリング調査(大気質、粉じん等)の結果について(お知らせ)

中央 JCT・東八道路 IC(仮称)周辺 大気質、粉じん等調査

夏季(令和7年6月~令和7年8月)に実施した大気質、粉じん等調査の結果についてお知らせします。

◆調査期間

夏季

大気質 :令和7年7月1日(火)~7月7日(月)(7日間)

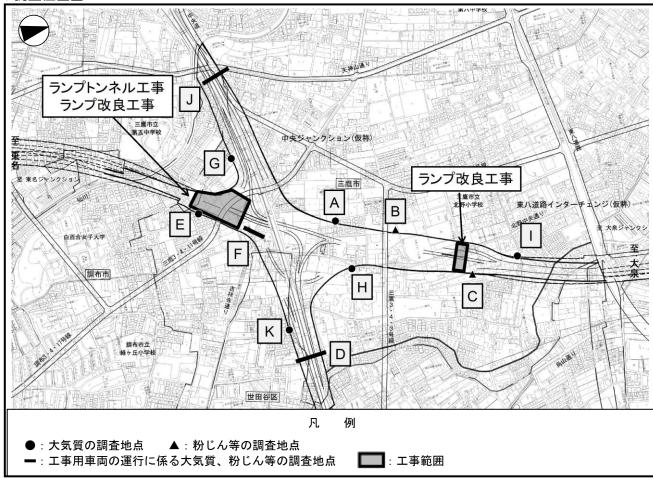
令和7年7月13日(日)~7月19日(土)(7日間)

令和7年8月20日(水)~8月26日(火)(7日間)

粉じん等:令和7年7月1日(火)~7月31日(木)(1ヶ月間)

令和7年7月30日(水)~8月29日(金)(1ヶ月間)

◆調査位置図



◆問い合せ

担当窓口:国土交通省関東地方整備局 東京外かく環状国道事務所 計画課

電話番号:0120-34-1491(外環専用フリーダイヤル 平日9:15~18:00)

◆調査結果

- ○建設機械の稼働に係る大気質【二酸化窒素(NO₂)、浮遊粒子状物質(SPM)】
- •二酸化窒素(NO2)については、いずれも環境基準を下回る結果となっています。
- 浮遊粒子状物質(SPM)については、1 日平均値、1 時間値ともにいずれも環境基準を下回る結果となっています。

	E					
調査日	NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)				
	1日 平均値	1 日 平均値	1 時間値の 最大値			
7月1日	0.007	0.022	0.028			
7月2日	0.008	0.023	0.026			
7月3日	0.005	0.020	0.030			
7月4日	0.004	0.017	0.025			
7月5日	0.008	0.024	0.037			
7月6日	0.005	0.040	0.067			
7月7日	0.007	0.066	0.089			
期間内平均	0.006	0.030	_			

※ 調査地点 A、G、H、I、K の周辺では、6 月~8 月は工事が行われなかったため、調査を実施していません。

○工事用車両の運行に係る大気質【二酸化窒素(NO₂)、浮遊粒子状物質(SPM)】

- •二酸化窒素(NO₂)については、いずれも環境基準を下回る結果となっています。
- ・浮遊粒子状物質(SPM)については、1日平均値、1時間値ともにいずれも環境基準を下回る結果となっています。

		D		F			J				
調査日	NO ₂ (ppm)	SPM(r	mg/m³)	調査日	NO ₂ (ppm)	SPM(r	mg/m³)	調査日	NO ₂ (ppm)	SPM(mg/m ³)	
	1日 平均値	1日 平均値	1 時間値 の最大値		1日 平均値	1日 平均値	1 時間値 の最大値		1日 平均値	1 日 平均値	1 時間値 の最大値
7月13日	0.008	0.013	0.018	8月20日	0.013	0.024	0.030	7月13日	0.008	0.013	0.019
7月14日	0.006	0.011	0.015	8月21日	0.012	0.024	0.034	7月14日	0.006	0.010	0.017
7月15日	0.003	0.017	0.031	8月22日	0.013	0.033	0.049	7月15日	0.003	0.018	0.032
7月16日	0.004	0.021	0.039	8月23日	0.009	0.028	0.040	7月16日	0.004	0.021	0.040
7月17日	0.003	0.018	0.028	8月24日	0.008	0.032	0.043	7月17日	0.003	0.020	0.031
7月18日	0.004	0.014	0.025	8月25日	0.012	0.035	0.055	7月18日	0.003	0.017	0.032
7月19日	0.004	0.011	0.016	8月26日	0.009	0.036	0.056	7月19日	0.003	0.012	0.018
期間内平均	0.005	0.015	_	期間内平均	0.011	0.030	_	期間内平均	0.004	0.016	_

○建設機械の稼働に係る粉じん等

・粉じん等(降下ばいじん量)については、いずれも参考値を下回る結果となっています。

	調査時期	С	
降下ばいじん量(t/km²/月)	夏季	1.3	

[※] 調査地点Bの周辺では、6月~8月は工事が行われなかったため、調査を実施していません。

○工事用車両の運行に係る粉じん等

粉じん等(降下ばいじん量)については、いずれも参考値を下回る結果となっています。

	調査時期	D	F	J
降下ばいじん量(t/km²/月)	夏季	1.0	2.9	2.4

参考

◆環境基準

二酸 化 窒素: 1時間値の1日平均値が0.04ppm から0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。

(「二酸化窒素に係る環境基準について」(環境庁告示))

浮遊粒子状物質: 1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20 mg/m³以下であること。

(「大気の汚染に係る環境基準について」(環境庁告示))

※環境基準との評価は、『道路環境影響評価の技術手法』に基づいて、1年間の測定を通じて得られた1日平均値のうち、低い方から数えて98%目(若しくは高い方から数えて2%目)にあたる値を環境基準と比較することにより行います。

◆参考値

降下ばいじん量:20t/km²/月以下

※降下ばいじん量に環境基準はありません。環境を保全する上での降下ばいじん量は、スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標*を参考とした 20t/km²/月が目安と考えられます。(「道路環境影響評価の技術手法(平成24年度版)」より引用)なお、計測されるばいじん量は建設機械以外から発生するものも含まれるため、環境影響評価では、上記基準を達成するよう、建設機械の稼働の寄与分を 10t/km²/月以下とするよう評価を行っています。

*「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について」(平成2年7月3日、環大自第84号)